

<平成24年度事業化可能性調査の結果>

平成24年度に廃棄物系バイオマス利用の事業化可能性検討を行なったところ、バイオマス事業化のための設備コストが大きいこと、原料調達から需要確保までの幅広い事業者等のマッチングと連携が必要なことなどの課題が明らかになりました。

検討モデル案	ねらい	バイオマス	利用技術	付加価値	個別の課題
食品廃棄物の地域内循環利用	再生利用困難物である包装済食品廃棄物の資源化	動植物性残渣	固形燃料化	地域活性化	・技術的課題 ・設備コスト ・需要者の確保
観光地での食品廃棄物の資源化	再生利用の進んでいない厨芥類の資源化	厨芥類、水産加工残渣	メタン発酵	観光との連携効果	・事業者の連携 ・設備コスト ・残渣物の需要確保
木質バイオマスと畜産廃棄物の混合利用	未利用間伐材の有効利用と家畜糞尿の高度利用	木くず、家畜糞尿	直接燃焼	林業の再生	・収集の仕組み作り ・熱需要者の開拓
農畜産廃棄物の地域内循環利用	農業廃棄物と家畜糞尿の高度利用	家畜糞尿、廃果	メタン発酵	畜産振興	・収集・運搬方法 ・設備コスト ・残渣物の需要確保
焼却施設の廃熱の地域供給型熱利用	焼却施設の廃熱の有効利用	産業廃棄物	可搬型熱供給	地域活性化技術の汎用	・採算性 ・需要者の確保
共通の課題					
①異業種事業者間のマッチングと連携の促進、②設備コストの低減による事業採算性の改善、③法規制への対応、④産業振興・地域活性化メリットの創出					

そこで、平成25年度においては、事業化へ向けた具体的な検討を進めるため、フィールド調査による事業者（プレーヤー）の発掘、事業者間の連携の促進、事業化検討支援を行っていきます。

